

「森山小学校のてべし（手拍子）伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立森山小学校

2 学年・人数

小学校1年生から6年生（計16人）

3 日時・場所

(1) 練習の場所・日時

森山小学校体育館（9月）、運動会前の体育学習（9月）

(2) 発表の場所・日時

森山小学校・校区秋季大運動会（9月24日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

手拍子（てべし）

(2) 由来

ごしゅあげの時や祝賀会の際に踊られた。「手拍子」は「奴踊り」（やっこ）とも言い、手に何も持たないで踊るので「手拍子」という。その昔、谷山の人が道重に伝えたのが始まりとされている。

装束は、浴衣に一丈二尺の襷をかけ、裏青の手っ甲、黒足袋、足長草履、白鉢巻きをする。襷はのちに花柄帯になった。鉢巻きは後結びであるが、学校を出たての若い二才（にせ）〔少年〕たちは鉢巻きの両端を角のように結ぶ角鉢巻きにする。

(3) 構成

一番最初の踊りは「出端」（でば）といって、踊り場に一人ずつ出て右回りに丸く輪になって踊る。踊りと踊りの間は少しずつ休んで間をおくが、「いろにあそば」に引き続いて「松島」を踊りながら、一人ずつ踊り場から抜け出し、最後に一番上手な人（「とり」という）が一人残る。この人が踊り終わると、手拍子が終わる。

5 保存会や地域との連携の具体

父親の保護者を中心に、昔から伝わるてべしを子どもたちに教える。父親たちも子どもの頃、地域の先輩方から教わっている。小さな校区ではあるが、集落ごとに少々踊り方や手や足の位置が違ったりする。事前の練習には、地域の方を呼んで、踊り方や装束の付け方を確認しながら子どもたちに指導することもある。代々伝わる伝統芸能を絶やさないようにと、秋の運動会では、子どもたちやその保護者（父母共に）はもちろん、地域の方々にも呼びかけ、踊りに加わってもらい、大勢で輪を作り、披露するようにしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域や保護者が連携協力しながらてべしを継承していくために、今後も運動会を中心に踊りを披露していく。保護者を通じて、地域の指導者が数名子どもたちの指導にあたってくださるので、今後もつながりを持ち、連携を強化していきたい。また、今後は高学年等を中心に「てべし」の由来等についても詳しく調べることで、郷土に対する興味・関心をもたせ、郷土愛を育みたい。

7 取組の様子（練習時・運動会当日）



夜、体育館に集まり踊りの練習



運動会当日は装束を身に付けて踊る

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

子どもたちの感想

夜に集まり、てべしの練習をしました。1年ぶりで忘れていたかと思いましたが、踊っているうちに、思い出して体が自然と動きました。やるたびにみんな上手になっていったので、本番が楽しみになりました。また、衣装の付け方も練習しましたが、帯の結び方が難しく、お父さん・お母さんたちは『ああでもない、こうでもない・・・』と言いながら、やっていました。運動会当日は、ばっちり着せてもらいました。」

教員等の感想

本年度は、転入生が多かったため、子どもと保護者対象に夜の練習会を設定した。地域の保護者がいつも意欲的に練習等を計画してくださり、助かっている。踊り方指導や衣装の身に付け方等、地域の方や保護者同士の情報交換で引き継がれている。

子どもたちは、運動会当日に衣装を着せてもらうのが楽しみで、衣装を身につけると、俄然張り切り、勇ましく誇らしげに踊っていた。また、当日の呼びかけにもかかわらず、地域の方が大勢踊りの輪に加わり、子どもたちを盛り上げてくださってありがたかった。

昔から伝わる地域の伝統芸能に触れる機会があることは、子どもたちにとって有意義なことである。踊りの練習や運動会での披露を通じて、てべしの由来等を知り、今後大切に守り、継承していく意欲をもてることであろう。